

今回の薬の窓口では、薬剤性光線過敏症について紹介します。

➤ 光線過敏症とは？

- 日光や日光に含まれる紫外線にあたることによって、皮膚にはさまざまな変化が生じることがあり、これらを総称して「**光線性皮膚疾患**」といいますが、そのなかには光線のみが原因となり誰にでもおこる可能性がある「**日光皮膚炎**（いわゆる“日焼け”）」なども含まれます。
- 一方、**化粧水や薬剤などの外的な原因**、あるいは**遺伝性や代謝性疾患などの内的な原因**により、**わずかな光線量で異常な皮膚反応をおこすことがあり、これを「光線過敏症」といいます。**

➤ 薬剤性光線過敏症とその原因

- 光線過敏症を引き起こす薬剤には「**クロモフォア**」という物質（**日光を吸収する分子の総称**）が含まれることが分かっています。
- 化粧水、香水、薬剤、食品などを介して体内に取り込まれたクロモフォアが皮膚に到達し、そこに日光や紫外線（主には長波長紫外線（UVA））があたることで変化して、炎症をおこします。
- 薬剤の摂取様式により**光線過敏症型薬疹と光接触皮膚炎に分類**されています。また、そのいずれもが、**光毒性反応によるもの（光毒性皮膚炎）と光アレルギー性反応によるもの（光アレルギー性皮膚炎）**に分けられます。
- 紫外線の照射量が多い春から秋の時期に好発します。

➤ 光線過敏症への対策（予防・治療）

- 治療として、原因物質（薬剤など）の除去と遮光を基本とします。
- 日焼け止めや日傘などの使用は有効です。
- 薬剤性光線過敏症の予防においては、**日焼け止めのPA分類（UVAに対する防御効果を示している）が重要となります。**PA+～++++とあり、+が多いほどUVAに対する防御能が高くなります。
- 皮疹に対して**ステロイド外用剤や抗ヒスタミン薬**などを用いますが、まずは**医療機関において医師または薬剤師にご相談ください。**

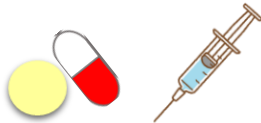

参考）薬がみえる vol.2 第2版 P514 光線過敏症
重篤副作用疾患別対応マニュアル 薬剤による接触皮膚炎
薬局2022/5 Vol.73.No.6 P94 サンスクリーン剤を選ぶポイントは？
シオノギヘルスケア：https://www.shionogi-hc.co.jp/hihushiruwakuru/skintrouble/32.html



「薬の窓口」は過去の資料も含めてホームページで公開しています。参考にしてください。



薬剤の摂取様式による分類

	光過敏症型薬疹	光接触皮膚炎
原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 全身投与薬（経口剤、注射剤など） ● 食品 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外用剤（軟膏剤、貼付剤など） ● 化粧品  <p>原因物質（外用剤）の接触部位に局限した発赤や水疱を認める。</p>

機序による分類

	光毒性皮膚炎	光アレルギー性皮膚炎
病態	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤に含まれるクロモフォアが日光を吸収し、有害な物質に変化することで直接皮膚障害を引き起こす（光毒性反応）。 ● 一定量のクロモフォアと日光により誰にでも起こりうる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤に含まれるクロモフォアが日光を吸収し、アレルギーなどに变化する。再びクロモフォアを摂取し光線曝露するとアレルギー反応によって皮膚が障害される（光アレルギー反応）。 ● 特定のアレルギー反応を有する者のみに生じる。
原因物質	<ul style="list-style-type: none"> ● 抗菌薬（ニューキノロン系など） ● 尋常性白斑の治療薬（8-メトキシソラレン） ● フェオフォルビド（クロロフィル分解物*） <p>*アワビ、健康食品のクロレラ、緑色野菜の漬物などに含まれる</p> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 消炎鎮痛薬（ケトプロフェン（主に外用剤）） ● 抗精神病薬（フェノチアジン系）（クロルプロマジン） ● 利尿薬（チアジド系） ● 経口血糖降下薬 ● ベルガプテン（柑橘系の精油に含まれる） <p>など</p> 